

六 賽四十五 五
 七 賽四十五 五
 八 賽四十五 五
 九 賽四十五 五
 十 賽四十五 五
 十一 賽四十五 五
 十二 賽四十五 五
 十三 賽四十五 五
 十四 賽四十五 五
 十五 賽四十五 五
 十六 賽四十五 五
 十七 賽四十五 五
 十八 賽四十五 五
 十九 賽四十五 五
 二十 賽四十五 五
 二十一 賽四十五 五
 二十二 賽四十五 五
 二十三 賽四十五 五
 二十四 賽四十五 五
 二十五 賽四十五 五
 二十六 賽四十五 五
 二十七 賽四十五 五
 二十八 賽四十五 五
 二十九 賽四十五 五
 三十 賽四十五 五
 三十一 賽四十五 五
 三十二 賽四十五 五
 三十三 賽四十五 五
 三十四 賽四十五 五
 三十五 賽四十五 五
 三十六 賽四十五 五
 三十七 賽四十五 五
 三十八 賽四十五 五
 三十九 賽四十五 五
 四十 賽四十五 五
 四十一 賽四十五 五
 四十二 賽四十五 五
 四十三 賽四十五 五
 四十四 賽四十五 五
 四十五 賽四十五 五
 四十六 賽四十五 五
 四十七 賽四十五 五
 四十八 賽四十五 五
 四十九 賽四十五 五
 五十 賽四十五 五
 五十一 賽四十五 五
 五十二 賽四十五 五
 五十三 賽四十五 五
 五十四 賽四十五 五
 五十五 賽四十五 五
 五十六 賽四十五 五
 五十七 賽四十五 五
 五十八 賽四十五 五
 五十九 賽四十五 五
 六十 賽四十五 五
 六十一 賽四十五 五
 六十二 賽四十五 五
 六十三 賽四十五 五
 六十四 賽四十五 五
 六十五 賽四十五 五
 六十六 賽四十五 五
 六十七 賽四十五 五
 六十八 賽四十五 五
 六十九 賽四十五 五
 七十 賽四十五 五
 七十一 賽四十五 五
 七十二 賽四十五 五
 七十三 賽四十五 五
 七十四 賽四十五 五
 七十五 賽四十五 五
 七十六 賽四十五 五
 七十七 賽四十五 五
 七十八 賽四十五 五
 七十九 賽四十五 五
 八十 賽四十五 五
 八十一 賽四十五 五
 八十二 賽四十五 五
 八十三 賽四十五 五
 八十四 賽四十五 五
 八十五 賽四十五 五
 八十六 賽四十五 五
 八十七 賽四十五 五
 八十八 賽四十五 五
 八十九 賽四十五 五
 九十 賽四十五 五
 九十一 賽四十五 五
 九十二 賽四十五 五
 九十三 賽四十五 五
 九十四 賽四十五 五
 九十五 賽四十五 五
 九十六 賽四十五 五
 九十七 賽四十五 五
 九十八 賽四十五 五
 九十九 賽四十五 五
 一百 賽四十五 五

主神あり偶像をつくる者のみを恥をいだき辱かしめをうけ諸其にはがのはてし程かんざきぞ
 エホバハ天を創造したまへる者にしてすあはち神ありまた地をもつくり成てをを堅くし徒
 然にこまを創造し給はずてをを人の住所につくりたまへりエホバかく官給ふわまはエホバあり我の
 ほかに神あることなしとわまはん隱たるところ地のくらき所にてかたらず我ハヤコフの裔になんから
 お我をたつぬるに徒然ありといは本我エホバハいたゞしき事をかたり直きてをを告ぐ汝等もなんの國
 より腹ききたる者よつどひわつまつり共にすみきたれ木の像をになひ教ふことわはたばざる神にの
 りするものハ無智なるありあんがらうの道理をもちきたりて進よまた共にはかき此事をたかか上古
 より示したりや誰かむかしてより告たりとや此ハわきエホバからずわ我のほかに神あることなしわれ
 ハ義をおてなひ救をばせとす神にして我のほかに神あることなし地の極なるものハよかんち
 ら我をわききのみめ然らずはきんわき神にして他に神あけまざりわきハ己をさして誓ひたり
 この言いたゞしき口よりいでたき反ることなしすべての勝りわきへに屈みすべての舌ハわきを誓
 をたてん人わきを就ていはん正義と力とエホバにのみありと人々エホバにきたらんすべてエホバ
 にむかひて怒るものハ恥をいたくべしエホバの裔ハエホバによりて義とせらまはれらん
 一 エホバハ伏しすボハ屈むかまらの像ハものど家畜のうへにありかんちがらば擡げぬ
 るきしものハ荷とかりて疲をさどろへたるけものハ負とことぞかりぬかきりハ屈みかまらん共にふし
 うの荷とさざる者をつくふこと能はずして己とらばれゆく○ヤコフの家よエホバのいのへの選を

一 賽四十六 六
 二 賽四十六 六
 三 賽四十六 六
 四 賽四十六 六
 五 賽四十六 六
 六 賽四十六 六
 七 賽四十六 六
 八 賽四十六 六
 九 賽四十六 六
 十 賽四十六 六
 十一 賽四十六 六
 十二 賽四十六 六
 十三 賽四十六 六
 十四 賽四十六 六
 十五 賽四十六 六
 十六 賽四十六 六
 十七 賽四十六 六
 十八 賽四十六 六
 十九 賽四十六 六
 二十 賽四十六 六
 二十一 賽四十六 六
 二十二 賽四十六 六
 二十三 賽四十六 六
 二十四 賽四十六 六
 二十五 賽四十六 六
 二十六 賽四十六 六
 二十七 賽四十六 六
 二十八 賽四十六 六
 二十九 賽四十六 六
 三十 賽四十六 六
 三十一 賽四十六 六
 三十二 賽四十六 六
 三十三 賽四十六 六
 三十四 賽四十六 六
 三十五 賽四十六 六
 三十六 賽四十六 六
 三十七 賽四十六 六
 三十八 賽四十六 六
 三十九 賽四十六 六
 四十 賽四十六 六
 四十一 賽四十六 六
 四十二 賽四十六 六
 四十三 賽四十六 六
 四十四 賽四十六 六
 四十五 賽四十六 六
 四十六 賽四十六 六
 四十七 賽四十六 六
 四十八 賽四十六 六
 四十九 賽四十六 六
 五十 賽四十六 六
 五十一 賽四十六 六
 五十二 賽四十六 六
 五十三 賽四十六 六
 五十四 賽四十六 六
 五十五 賽四十六 六
 五十六 賽四十六 六
 五十七 賽四十六 六
 五十八 賽四十六 六
 五十九 賽四十六 六
 六十 賽四十六 六
 六十一 賽四十六 六
 六十二 賽四十六 六
 六十三 賽四十六 六
 六十四 賽四十六 六
 六十五 賽四十六 六
 六十六 賽四十六 六
 六十七 賽四十六 六
 六十八 賽四十六 六
 六十九 賽四十六 六
 七十 賽四十六 六
 七十一 賽四十六 六
 七十二 賽四十六 六
 七十三 賽四十六 六
 七十四 賽四十六 六
 七十五 賽四十六 六
 七十六 賽四十六 六
 七十七 賽四十六 六
 七十八 賽四十六 六
 七十九 賽四十六 六
 八十 賽四十六 六
 八十一 賽四十六 六
 八十二 賽四十六 六
 八十三 賽四十六 六
 八十四 賽四十六 六
 八十五 賽四十六 六
 八十六 賽四十六 六
 八十七 賽四十六 六
 八十八 賽四十六 六
 八十九 賽四十六 六
 九十 賽四十六 六
 九十一 賽四十六 六
 九十二 賽四十六 六
 九十三 賽四十六 六
 九十四 賽四十六 六
 九十五 賽四十六 六
 九十六 賽四十六 六
 九十七 賽四十六 六
 九十八 賽四十六 六
 九十九 賽四十六 六
 一百 賽四十六 六

ものよ腹をいでしより我におはき路をいでしより我にもたげらまはるものよ皆わきにきくべしかん
 ちらの年老るまで我ハかはらず白髪となままで我なんちらを負ん我つくりたきを擡ぐべし我きたる以
 かつ救はんなんちら我をたきに比べたきお配ひたきに擡ちんかつ相くらぶべきか人かふるより
 黄金をかたけいだし權衡をもて白銀をはかり金工をやとひてきと神につくらん中々にひき入して拜む
 等々のをもちたげて肩にのせ負ひゆきての處に安置すすなち立ちての處をばかき人てをに
 むかひて呼ばざるも答へることも能はず又て事をすくひて苦難のうちより出すことわはたばすなんちら此
 事をあもひいでく堅くたつべし憚者よこのことを心に定めよ汝等いにもより以來のこのことをかも
 ひいでよわきハ神なり我のほかに神なしわきハ神あり我のこのときき者なしわきハ神のこのときを始よりつ
 げいまだ成さることを昔よりつげわが謀賢ハかならず立ていひすべて我のよろこぶことを成んとい
 へりわき東より驚をまねき遠國よりわが定めおける人をまねかたわきこのことを語りたきべ必ず來
 らずべし我のこのことを語りたきべかならず成すべしなんちら心かたくなにして義にほほざかるもの
 よ我にきけわまわが義をおかづかしむ可きもの來ること遠からずわが救ふからず我すくひをま
 ちにおたへわが榮光をエホバにあらん
 一 エホバの處女よくだりて塵のなかにすわをカルフア人のむすめと處にすわらち
 地にすわを落ふたゞば嬌嬌にして嬌ふりどさかへらんとてさかからん處をどりて粉をひけ面頬をどり
 び桂をぬき體をあらはして河をわたせなんちの脚ハあらはさばなんちの恥ハみゆべしわき仇をむく
 いて人をかへりかすわれらを贖ひたまふ者ハうの名を萬軍のエホバエホバの聖者といふハカル

ふりおさせエルサレムよ起よすれ停息たるシオンのむすめよ汝がうなじの繩をさきすてよ。ろハエホバが言給ふ。なんぢらなんぢら價なくして賣されたり。金なくして贖せらるべし。主エホバが如此のひたまふ義にわが民エホバトにくだりゆきて彼處にどまされり。アツスリヤ人少くなくして彼等を去へたげたり。エホバが宣給く。わが民のゆゑなくして停息たり。さきへ我こそは何をなさん。エホバのたまはく。彼等をつかさばる者さげよ。さきよりわが名につねに終日けさるゝなり。この故にわが民わが名をさらん。このゆゑにこの日にわが民の言をわたるものば我なるをそらん我こそに在り。よるここの言信をつたへ平和をつげ。善おさうれをつたへ。繩をつげシオンに向ひて。なんぢの神はずべ治めたまふといふものれ足ら山に上りて。いかに美しきかな。なんぢの斥候の聲きこゆ。かれらハエホバのシオンに歸りたまふを。目とわひあせて。禱るが故に。みお聲をわけても。ともたらへり。エルサレムの荒廢れたると。ろよ聲をなちて。共にうたふべし。エホバの民をなげめ。エルサレムを贖ひたまひたれ。ななり。エホバのきよき手をもろくの國人の目まへに。あらたせたまへり。地のものろくの極までも。われらの神のすくひを見ん。なんぢら去よ。されよ。彼處をいで。汚れたるもの。に觸るな。かれうの中をいでよ。エホバの器をになふ者よ。なんぢら潔くわれ。なんぢら急ぎいづるに。わらす。廻りゆくに。わらす。エホバのなんぢらに。ゆきイサエルの神のなんぢらの軍候と。あり給ふべければ。あり。視よ。わが。も。智慧をもて。是。を。な。し。上りの。ばりて。甚だたかく。からん。暴に。い。も。ほ。く。の。人。か。れ。を。見。て。お。ど。き。たり。この。面。貌。の。ろ。こ。な。して。人。と。異。あり。この。形容。の。ど。ろ。へ。て。人。の。子。と。こ。な。れ。り。後に。わが。ほ。く。の。國民。に。う。が。ん。王。た。ち。彼れによりて。口を縛。ま。ん。て。ハ。かれら。未。だ。つ。た。へ。ら。れ。ざる。こと。を。見。い。ま。だ。開。き。る。こと。を。惜。る。べ。け。れ。べ。なり。

一節七
二節一〇
三節一三
四節一六
五節一九
六節二二
七節二五
八節二八
九節三一
一〇節三四
一一節三七
一二節四〇
一三節四三
一四節四六
一五節四九
一六節五二
一七節五五
一八節五八
一九節六一
二〇節六四
二一節六七
二二節七〇
二三節七三
二四節七六
二五節七九
二六節八二
二七節八五
二八節八八
二九節九一
三〇節九四
三一節九七
三二節一〇〇
三三節一〇三
三四節一〇六
三五節一〇九
三六節一二
三七節一五
三八節一八
三九節二一
四〇節二四
四一節二七
四二節三〇
四三節三三
四四節三六
四五節三九
四六節四二
四七節四五
四八節四八
四九節五一
五〇節五四
五一節五七
五二節六〇
五三節六三
五四節六六
五五節六九
五六節七二
五七節七五
五八節七八
五九節八一
六〇節八四
六一節八七
六二節九〇
六三節九三
六四節九六
六五節九九
六六節一〇二
六七節一〇五
六八節一〇八
六九節一一一
七〇節一一四
七一節一一七
七二節一二〇
七三節一二三
七四節一二六
七五節一二九
七六節一三二
七七節一三五
七八節一三六
七九節一三九
八〇節一四二
八一節一四五
八二節一四八
八三節一五一
八四節一五四
八五節一五七
八六節一六〇
八七節一六三
八八節一六六
八九節一六九
九〇節一七二
九一節一七五
九二節一七八
九三節一八一
九四節一八四
九五節一八七
九六節一九〇
九七節一九三
九八節一九六
九九節一九九
一〇〇節二〇二

第五十三章
われら富むることを信せしものハ罰分やエホバの手いたれにあらはれしや。かれの主のまへに華のごとく。燦きたる土より。いづる樹株のごとく。うちたり。われらが見るべき。うらむべき。容さく。うつくしき。貌。ハ。なく。われら。が。た。ふ。び。き。艶。色。あ。し。かれ。ハ。侮。ら。れ。て。人。に。す。て。ら。れ。悲。哀。の。人。に。し。て。病。患。を。し。れ。り。また。面。を。烏。ほ。ひ。て。避。る。こと。を。せ。ら。る。者。の。ご。と。く。侮。ら。れ。たり。われら。も。彼。を。た。ふ。さ。ま。さ。り。き。○。ま。こ。と。に。彼。れ。ら。の。病。患。を。お。ひ。我。儕。の。か。な。し。み。を。擯。へ。り。然。る。に。わ。れ。ら。思。へ。ら。く。彼。れ。に。せ。め。ら。れ。神。に。う。た。れ。苦。し。め。ら。る。ゝ。な。り。と。彼。れ。ら。の。愆。の。ため。に。傷。け。ら。れ。わ。れ。ら。の。不。義。の。ため。に。碎。かれ。み。づ。か。ら。懲。罰。を。う。け。て。わ。れ。ら。に。平。安。を。あ。た。ふ。この。う。た。れ。し。痕。により。て。わ。れ。ら。ハ。癒。され。たり。われ。ら。ハ。み。お。さ。羊。の。ご。と。く。迷。ひ。て。鳥。の。ハ。已。道。わ。む。か。ひ。ゆ。け。り。然。る。に。エ。ホ。バ。ハ。わ。れ。ら。見。て。の。も。と。不。義。を。か。れ。の。ろ。へ。に。置。た。ま。へ。り。○。彼。れ。く。る。し。め。ら。る。れ。ば。み。づ。か。ら。誑。だ。り。て。口。を。ひ。ら。か。さ。り。き。かれ。ハ。虐。待。と。判。定。に。よ。り。て。取。去。れ。た。を。さ。る。者。の。ま。へ。に。も。た。す。羊。の。ご。と。く。して。その。口。を。ひ。ら。か。さ。り。き。かれ。ハ。虐。待。と。判。定。に。よ。り。て。取。去。れ。た。り。その。代。の。人。の。う。ち。誰。も。かれ。が。活。る。もの。と。地。より。絶。れ。し。こと。を。思。ひ。た。り。し。や。彼。れ。わ。が。民。の。ど。の。爲。に。う。た。れ。し。かり。その。墓。ハ。わ。し。き。者。と。も。に。設。け。ら。れ。た。れ。ど。死。る。と。さ。り。富。る。もの。と。も。に。あ。れ。り。かれ。ハ。暴。を。お。こ。さ。ば。す。その。口。に。ハ。虚。偽。か。り。き。され。ど。エ。ホ。バ。ハ。かれ。を。碎。く。こと。を。よ。ろ。こ。び。て。之。を。あ。や。ま。し。た。ま。へ。り。欺。で。かれ。の。靈魂。と。が。の。骸。骨。を。あ。す。に。い。た。ら。ば。彼。れ。の。末。を。み。る。を。得。る。の。日。ハ。永。か。ら。ん。か。つ。エ。ホ。バ。の。憐。れ。た。ま。ふ。ご。と。く。わ。れ。の。手。に。よ。り。て。樂。ゆ。べ。し。かれ。ハ。已。だ。ま。し。の。煩。勞。を。み。て。心。た。ら。ば。ん。わ。が。義。し。き。僕。の。ろ。の。知識。に。よ。り。て。お。ほ。く。の。人。を。義。と。し。又。かれ。ら。の。不。義。を。烏。え。ん。この。ゆ。ゑ。に。我。か。れ。を。して。大。ある。もの。と。も。に。物。を。わ。か。ち。取。し。め。ん。かれ。ハ。強。き。もの。と。も。に。掠。奪。を。わ。か。ち。と。る。べ。し。彼。れ。ハ。の。が。靈。魂。

一節一
二節四
三節七
四節一〇
五節一三
六節一六
七節一九
八節二二
九節二五
一〇節二八
一一節三一
一二節三四
一三節三七
一四節四〇
一五節四三
一六節四六
一七節四九
一八節五二
一九節五五
二〇節五八
二一節六一
二二節六四
二三節六七
二四節七〇
二五節七三
二六節七六
二七節七九
二八節八二
二九節八五
三〇節八八
三一節九一
三二節九四
三三節九七
三四節一〇〇
三五節一〇三
三六節一〇六
三七節一〇九
三八節一二
三九節一五
四〇節一八
四一節二一
四二節二四
四三節二七
四四節三〇
四五節三三
四六節三六
四七節三九
四八節四二
四九節四五
五〇節四八
五一節五一
五二節五四
五三節五七
五四節六〇
五五節六三
五六節六六
五七節六九
五八節七二
五九節七五
六〇節七八
六一節八一
六二節八四
六三節八七
六四節九〇
六五節九三
六六節九六
六七節九九
六八節一〇二
六九節一〇五
七〇節一〇八
七一節一一一
七二節一一四
七三節一一七
七四節一二〇
七五節一二三
七六節一二六
七七節一二九
七八節一三二
七九節一三五
八〇節一三六
八一節一三九
八二節一四二
八三節一四五
八四節一四八
八五節一五一
八六節一五四
八七節一五七
八八節一六〇
八九節一六三
九〇節一六六
九一節一六九
九二節一七二
九三節一七五
九四節一七八
九五節一八一
九六節一八四
九七節一八七
九八節一九〇
九九節一九三
一〇〇節一九六